

知られざる ロードアイランドでの留学体験記

Brown University

江村 菜津子

(岩手大学大学院連合農学研究科生物生産科学専攻)

海外でのポストク生活も早いものでもうすぐ2年になろうとしています。私は現在、アメリカのロードアイランド州にあるブラウン大学で日々、一人前の研究者を目指して研究をしています。日本にいた頃は、学部から博士まで一貫してブタの発生学分野で研究をしていました。約7年間に渡ってブタ胚を扱っていましたが、使える胚の数や技術に限りがあり、自分の研究に限界を感じていました。また、異なる動物種間での発生の違いにも興味があったことから、次のポジションでは、モデル動物を変えようと決めていました。修士課程在学中に1年だけですが、海外に研究留学した経験があり、その時に感じたカルチャーショックが忘れられず、また海外に行きたいとも考えていました。こういった経緯から、ブラウン大学でのポストク生活がスタートし、現在は主にウニ胚を使ってその発生における研究をしています。ウニ胚は高校の教科書にも登場するほど、古くから研究されている動物なので知見も多く、大量の胚を一度に手に入れることができます。さらに初期胚発生においてウニは、我々哺乳類となぜか類似している点が多く、発生学で有名な実験動物であるショウジョウバエや線虫よりも有用なモデル動物として期待されています。一実験のスピードがかなり速く、毎日出るデータの解釈に奮闘する日々ですが、実験の回転が速い分、発見も多く、実りのある研究生活を送ることができています。

さて、日本ではあまり知られていないロードアイランド州ですが、私が住む州都プロビデンスは街並みがとても綺麗なところで、渡米した当初は近所を歩くだけで異国に来た感じがして、心が躍ったのを覚えています。また、ロードアイランド州はアメリカ最小の州として知られており、その面積は滋賀県ほどしかありません。そのため隣のマサチューセッツ州やコネチカット州まで車や電車を使うと1-2時間で行くことができ、比較的田舎ながらも都会が近く便利なところですよ。名門のハーバード大学やマサチューセッツ工科大学がボストンにあることもあり、活発な研究や事業が身近であることもまた大きな魅力です。ボストンエリアには日本人も多く住んでおり、月に一度ボストン日本人研究者交流会というイベントもあるほど、日本人の中だけでも研究のシェアや議論が頻繁に行われています。私も一度、その交流会で僭越ながら発表する機会があり、色んな分野の方々から貴重な質問や意見をいただくことができました。

私は研究面でも生活面でも恵まれた環境にあり、幸いにもあと2年ほどは、現在のポジショ

ンで研究を継続できることになりました。次のステップも考えつつ、引き続き日々の実験に邁進していきたいと思っております。最後になりますが、研究留学を支援して下さった上原記念生命科学財団の皆様には深く感謝申し上げます。



ロードアイランド州の観光名所ニューポート